

文化・芸術を極めた、豊島区にゆかりのある方々へインタビュー。
その道を深く愛するからこそ知る魅力や、
楽しむコツを教えてくださいました。
皆さんも、文化・芸術を通して心揺さぶられる体験をしてみませんか。

狂言の世界

失敗も、愚かさも
前向きに笑い飛ばす



「堅苦しさや敷居の高さはありません。
フラットに楽しんでほしいです。」

狂言師
野村 万之丞 さん

祖父野村萬一（人間国主）および父
万蔵に師事。三兄弟の長男。若い
世代への狂言の普及にも尽力。

狂言は人間の失敗や本音を笑い
に変える喜劇です。現代社会
では、ちょっとしたことがす
ぐに問題視され、SNSでの
誹謗中傷や世間からのパッ
シングなどにより、息苦しい
思いをしている人も多いと
思います。そんな時代だからこ
そ、狂言の「失敗を笑い飛ばす寛容な
姿勢」は心に響くはず。公演中はどこで笑ってもどこで拍手を
しても構いません。忙しい日々には、ぜひストレス
を吹き飛ばしに来てほしいですね。当家は豊島区に居を構え
て約80年。最近は区内の小・中学校でアウトリーチ公演を行
うなど、若い世代への文化の継承にも注力しています。幼少
期に触れた「楽しかった」体験があれば、いつかまた狂言を観
に来てもらえると思っています。私たち三兄弟が企画する「ふ
らっと狂言会」では公演前に簡単なあらすじなどを解説し、
高度な知識がなくても「フラット」に楽しめる工夫をしていま
す。ぜひ皆さんも気軽に、「ふらっと」観にいらしてください。



100点満点の理解を
目指さなくてもいい

鑑賞中にわからない言葉があっても大
丈夫！50～60点の理解度でも十分つい
ていけるので、肩の力を抜いて楽しんで
ください。

狂言アウトリーチ公演

区立小・中学校を対象とした狂言
の派遣型公演を実施しています。
昨年度は小学校6校で、万之丞さん
をはじめとした和泉流野村万蔵
家による狂言「柿山伏」を、6年生
が鑑賞しました。今年度は小学校
8校で実施予定です。

演劇の世界

生きた感情を
目の当たりにする



「劇場という非日常に自分の身を置く。
それだけでも楽しいはず。」

劇場シアターグリーン代表
朝比奈 文彦 さん

南池袋にある仙行寺で住職を務
めながら、劇場運営・演劇作品の
プロデュースなどを手掛ける。

シアターグリーンは先代住職の時代に、池袋を文化人が集
まる豊かなまちにしたいという思いから始まった劇場です。
2005年には3つのシアターを持つ劇場へとリニューアル。
ふらっと立ち寄った方が興味のある演目を選んで観劇でき
るようになりました。
演劇を観に行くという「非日常」はそれだけで楽しいものです。
また、古来より演劇は人の心を癒してきました。例えば、私が主
宰する劇団「ざ☆くりもん」では江戸を舞台に、自然への畏怖と
感謝、人情の温かみといった日本の本来の良さを描いていま
す。笑いあり涙ありのハートフルな物語は、観る人の心を整えて
明日の活力となってくれるはず。小劇場での観劇には敷居の高
さを感じる方もいるかもしれませんが、毎年9月に開
催する池袋演劇祭のよう
な、手軽に様々な演目に触
れられる機会もあります。
ぜひ一度劇場に来てみて
ください。



劇場が集まるまち
としま

豊島区には大小様々な劇場がたくさん
あります。一度近くの劇場へ足を運んで
みれば、好みの作品や応援したくなる役
者さんに出会えるかもしれません。

池袋演劇祭

演劇・劇場文化の裾野を広げるため
平成元年から行われている地域に
根差したユニークな演劇祭です。毎
年9月の約1か月間に区内で公演を
行う団体が参加、また一般公募で選
出された審査員の採点により大賞
をはじめとする各賞を決定します。

撮影…直江雨穂

茶道の世界

最上のおもてなしを
五感で味わう



「季節のお花や掛物、素敵なお茶碗。
お茶をいただくほかに、
楽しみは尽きません。」

豊島区茶道華道文化連盟
松村 喜久子 さん

18歳より茶道を始め約50年。
豊島区立目白庭園 赤鳥庵にて
「かるがも茶席」を設ける。

親の勧めで習い始めましたが、
お稽古を続けていくうちに
茶道にはたくさんの魅力が
あることに気が付きました。
私の一番の楽しみはお菓子。
季節やお祝いに合わせて
色々なものを用意します。お茶
とお菓子をいただくためだけ
に、ありったけの趣向を凝らして支
度をする。この贅沢な体験が茶道の魅力です。
お茶の席やその前後では、静かな空間で心を落ち着ける
以外に、会話を楽しむ温かな時間もあります。例えばお茶
碗が作られた場所についての会話が旅行のきっかけに
なったり、掛物に込められた意味を考えたりと豊かな楽し
み方があります。和装をするのもその1つで、だんだんと着
付けにも慣れていき、美しい所作が身につきます。
まずは、区の地域文化創造館でのお茶席や月釜などから、
気軽に立ち寄っていただけたらうれしいです。



月釜で
お茶席体験を

月釜は、寺社や茶室などで月に一度開か
れる茶会です。洋服でも参加可能で、特
別な道具も必要ありません。初めてのお
茶席体験にうってつけです。

豊島区茶道華道文化連盟

1951年の設立より、豊島区での茶
道・華道文化の普及・発展に努めて
います。華道分野では、区立小・中
学校で日本文化を体験する機会を
提供しています。また、毎年東京芸
術劇場にて「いけばな彩花展」を開
催しています。



書道の世界

筆遣いの美しさに
魅了される



「読めなくても、見ていて
かっこいいと思えばいいんです。」

豊島区書道会
井上 蓉花 さん

豊島区にて井上蓉花書道教室を主宰。
NHK文化センター講師も務める。
展示会への出展や個展も多数。

作品の制作は、書きたいと思う文字を見つけるところから
始まります。時代劇のセリフや、歌の歌詞などから気に入
った言葉を書いてみることもあります。先日の展示会では、
作品を見て涙を流している方もいて、きっとその方の心
に響いたのだと思い、うれしくなりました。
作品の中には、読めない文字や意味のわからない言葉も
たくさんあると思いますが、書道は視覚芸術ですから「筆
遣いや線の形がなんとなくかっこいいな」と思うだけでも
いいんです。会派によって字形や書き方が全く異なるので、
自分が好きな書体を探してみるのも楽しいと思います。
手ぬぐいやTシャツなどのデザインに使う筆文字を書かせ
ていただくこともありますので、そ
から興味を持ってもらうのも
いいですね。
そして、見てるとだんだ
んと自分も書きたくなって
くるはずです。日常から離
れて没頭する、濃密な時間
を過ごすことができますよ。



言葉の意味が
わかればもっと面白い

書道作品では、偉人の言葉や詩などが
引用されることが多いです。書かれた言
葉の意味を調べると、作品の味わいが
ぐっと深まることでしょう。

豊島区総合美術展

12月8日(火)～13日(日)
東京芸術劇場ギャラリー1・2
豊島区書道会、豊島区美術家協
会、豊島区茶道華道文化連盟の
展示です。書・美術・いけばななど、
様々なジャンルの珠玉の作品を
お楽しみください。

